

平成 18 年 2 月 7 日  
(社)九州・山口経済連合会

# 自律的経済圏形成のための九州地域戦略

～ キーワードは連携 ～

## 1. 「九州地域戦略会議」の設立 (H16.10)

### (1) 目的

- ・ 「九州はひとつ」の理念のもと、地域の自立的発展に向けて、官民一体で施策を検討し取り組む

### (2) 構成

- ・ 九州・沖縄・山口 9 県知事と、九経連、九商連、九同友、九経協の代表

### (3) 活動

九州の一体的発展に資する社会資本整備  
産業振興と環境保全  
地方制度改革と行政効率化  
アジアとの交流促進  
その他

### (4) 実施事項

九州観光推進機構の設置

- ・ 予算 5 億円 / 年、スタッフ 23 人
- ・ 観光ルート 60 コースを紹介

循環型高速交通体系の整備効果の試算

- ・ 東九州自動車道など

道州制検討委員会設置

- ・ 構成：九州地方知事会と九州の経済 4 団体
- ・ 本年 10 月の戦略会議へ報告、意思統一を図る。併せて市民の理解を得る。

夏季セミナーの開催（産学官のトップが参加、1 泊 2 日、H17.7 = 152 名）

- ・ 分科会テーマ：九州一体観光、新産業創出、アジアとの交流、中心市街活性化、分権改革、道州制など

## 2. 産業振興 『九州の強みを発揮する産業集積の強化』

### (1) 産業クラスター形成へ向けた取り組み

- ・鉄鋼、化学、造船、ゴムの産業集積と“ものづくり”の基盤の活用
- ・先端産業（自動車、半導体、環境、ロボット、バイオ、ナノテク）と関連企業群の集積促進。

高機能部品メーカーや電装部品メーカーの誘致

地元企業に対する人材育成（金型、鋳鍛造、溶接、メッキなど）、技術高度化、先端産業とのマッチングなどを支援

中小企業間、異業種間、地域間の「新連携」の促進

### (2) 頭脳部門とのネットワーク構築

- ・開発・設計部門と生産現場との近接化
- ・新産業創出のための産学連携、シリコンシーベルト構想や学術研究都市構想の推進、TLOの機能強化

### (3) 少子高齢化や団塊世代の定年に対応する人づくりとOB人材の活用

- ・高度IT人材養成カレッジ
- ・金型中核人材育成協議会
- ・熊本テクノ財団

### (4) 食料基地と食品加工 観光振興

#### (参考) 九州での主な新工場建設や大型投資計画（新聞報道等による）

	会社名	内容	投資額	時期
自動車関連	トヨタ自動車九州 (福岡県宮田町)	ライン増設 (年産28万台 43万台)	300億円	05年9月
	トヨタ自動車 ○(福岡県苅田町)	エンジン工場新設 (年産22万台)	340億円	06年1月
	日産自動車 ○(福岡県苅田町)	溶接ライン・塗装ライン改修	300億円	05～07年
	ダイハツ車体 ○(大分県中津市)	軽自動車工場新設	400億円	04年12月
		第二工場新設 (年産25万台 40万台)	400億円	08年
	デンソー (北九州市)	ディーゼルエンジン用燃料噴射装置の工場新設	200億円	06年
	小糸製作所 (佐賀市)	自動車用照明機器の工場新設	100億円	06年10月
半導体	東芝 ○(大分市)	300ミリウエハ対応新棟建設	2,000億円	03～07年
	ソニーセミコンダクタ九州 (熊本県菊陽町)	CCD、省電力型CMOSセンサー生産 新棟建設	500億円	06年春
薄型TV・他	富士写真フイルム (熊本県菊陽町)	偏光板保護フイルム工場新設	1,000億円	06年12月
	大日本印刷 (北九州市)	液晶用カラーフィルターライン増設	250億円	06年
	富士通日立プラズマディスプレイ ○(宮崎県国富町)	PDP生産増強 (月産10万枚 30万枚)	850億円	06～08年
	キャノン ○(大分市)	プリンターのトナーカートリッジ工場新設	800億円	07年

(累計:約7,500億円)

### 3. 社会基盤整備 『産業競争力を高めるビジネス環境の整備』

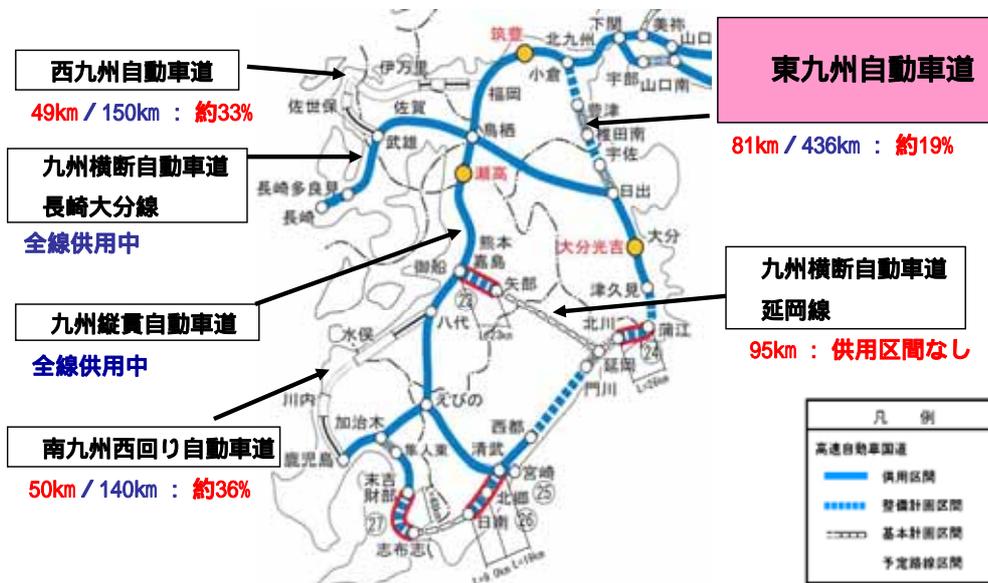
#### (1) 循環型高速交通ネットワークの整備

町おこし、ものづくり、観光振興、国際交流のためには、交通インフラのネットワーク化が不可欠。時間短縮は決定的意味をもつ。部材調達は片道2時間以内。

九州新幹線鹿児島ルート、南半分開通のインパクト大

東九州自動車道の整備が急務 - 計画436km、供用わずか19%

- ・ 東九州道の整備効果：生産誘発額3.86兆円/年、雇用創出15万人
  - ・ 循環型高速道路のネットワーク効果：時間短縮、経費節減など2.26兆円/年
- 九州新幹線西九州ルート、JR日豊線の高速化、九州横断道路延岡ルート、西九州道路、南九州西回り道路などが課題



#### (2) “アジアの中の九州”の視点で、アジアに開かれた物流ネットワーク機能の向上

福岡空港が満杯状態。国、県、市で調査しPIへ。

- ・ アジア便の拡充を期待

3月に新北九州空港が21時間運用で開港。貨物便も。

- ・ 道路整備と軌道系のアクセス整備が課題

スーパー中枢港湾指定に向けた機能強化

- ・ 博多港と北九州港が共同申請
- ・ 博多～上海間に高速貨物船就航（所要26時間）
- ・ JRコンテナと船舶コンテナの共用化

高速船ビートル、自動車輸出の博多港集中、釜山に物流センター建設。

#### (3) 高度情報通信ネットワークの構築

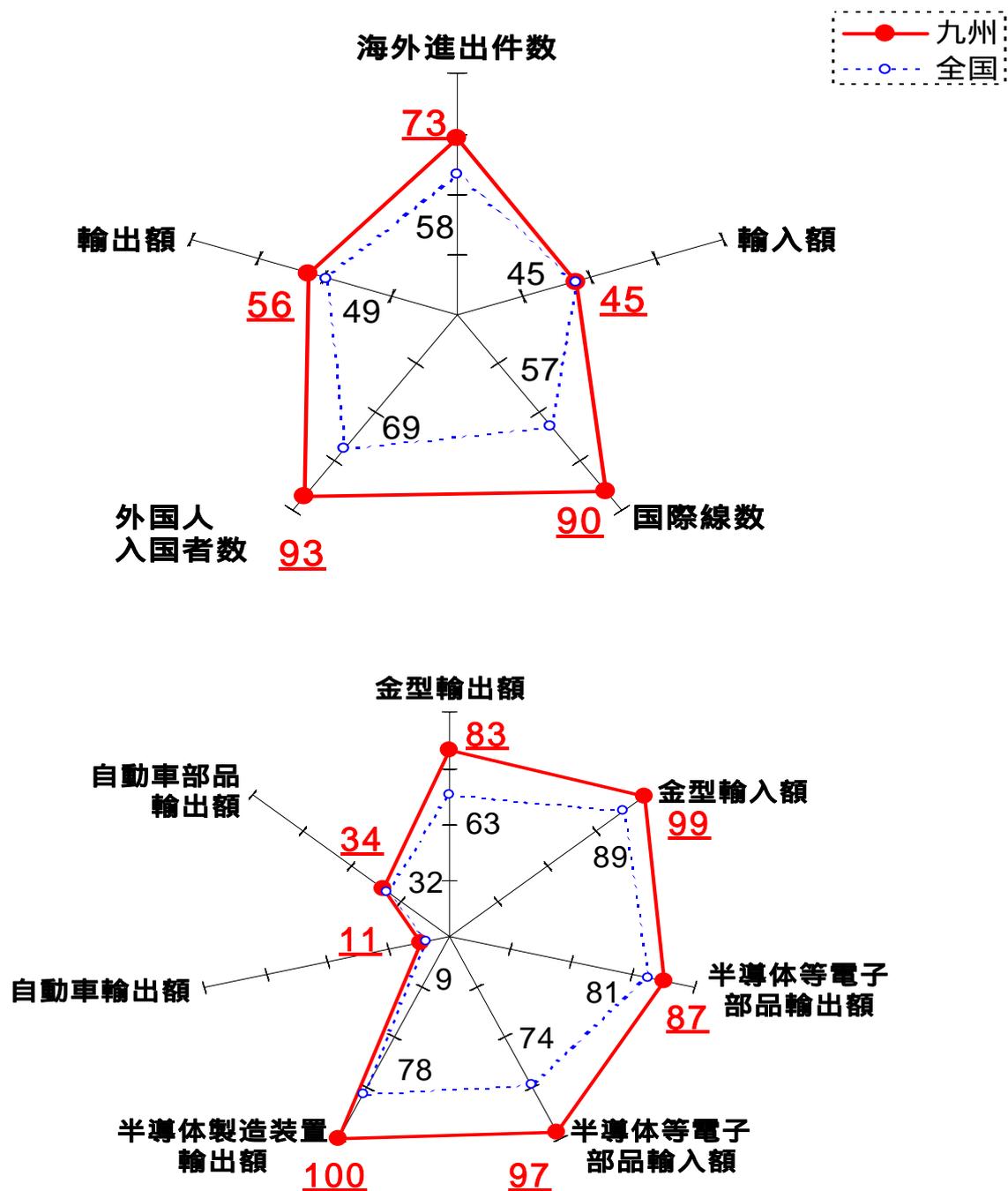
九州各県の情報ハイウェイは県域で閉じており、接続を検討

日韓IT光コリドー（H14年完成、毎秒50GB、2回線）の活用促進

#### 4. アジアとの交流拡大『東アジア経済文化圏の形成に向け』

九州の発展戦略の基本は、九州各地の連携と、アジアとの連携・共生。九州とアジアとの関係は緊密化している。

(参考) 九州のアジア度、全国との比較 (2004年、%)



出典：九州経済産業局「九州アジア国際化レポート2005」

(1) ハイテク製造業の国内回帰と、アジアに対するマザー工場化

- ・ 日本の製造業は、生産コストの安いアジアへ工場移転。
- ・ ハイテク化と共に開発部門との近接化のため国内へ回帰。九州で顕著。
- ・ 新製品の開発や生産工程の改善を、九州のマザー工場ですべてアジアへ展開。

(2) 九州とアジアの間での分業の進展

工程内分業（自動車など）

- ・ 九州の高い技術力とアジアの安い労働力の両方を活用。高機能部品を輸出、アジアで仕上げ。

金型にみる水平分業と問題点

- ・ 技術移転とそのブーメラン効果が、日本の金型中小企業を圧迫。
- ・ ゴムやプラスチック金型は中国・韓国へ。日本では金属金型の多品種少量生産となり売上減。

(3) 自動車の高機能部品についても、技術移転され、中国などで現地調達化

(4) 科学技術振興政策と九大学術研究都市への期待

- ・ 水素エネルギー、ヒューマンロボット、超微細加工など最先端技術の開発。

(5) 交流促進のための取り組み

環黄海経済・技術交流会議

- ・ 昨年 5 回目を開催したが、互いに実効を求める段階へ。
  - 「環黄海ビジネスダイアログ」。商習慣の違いや模倣品問題などのビジネス障碍の解決策を協議。解決困難な時は、行政の局長会議へ持ち上げる。
  - 大学総長、学長フォーラムを同時開催。
  - 第 5 回会合の総会では、自動車、IT、金融などの専門家会合の開催要望や、人材育成のための協力等の提案がされた。

都市間ネットワークによる地域限定版 FTA の形成

- ・ 環黄海 10 都市会議では、地域限定版「東アジア FTA」として、関税以外の部分で通関手続きの簡素化などを検討。

外国人人材の活用

- ・ 九州とアジアの懸橋となる人材の育成。留学生支援。

文化交流の促進

- ・ 九州国立博物館      ・ アジア美術館      ・ アジアマンス

以上